

番号	意見の概要	該当資料	回答
1	資料1 自立援助ホームの設置数については、良い方向に向っていますが、数が多いことだけでなく、内容、職員の質の向上のための研修を充実すべきだと思う。	資料1 I 子ども・若者	県では、児童養護施設等の職員や児童相談に関わる職員等が資質向上のために研修に参加する経費及び研修期間中の代替職員の経費等に対して補助しております。
2	資料2 一時預かり事業実施か所数について、手続きや利用のしやすさ等を身近に周知はされているか。	資料2 II 親(46)	市町村においてホームページ等で利用案内を含めた周知が図られています。
3	資料3 未達成状況の矢印を下向きから上向きになるよう努力目標はあるか。	資料3	努力目標はありませんが、子育て環境を社会全体で支える環境づくりのための目標であり、目標を達成するための取組を一層推進していきます。
4	資料4 「子どもの権利ノート」は、入所児童のみの配付でなく全生徒への配布を望む。	資料4 I 子ども・若者	児童虐待防止に向け、子ども自らがSOSを出しやすい体制を構築することは重要と考えています。千葉県では、子どもの権利について記載された「子どもの権利ノート」を作成しています。様々な相談機関の連絡先も記載されており、今後、地域関係機関と連携して普及させていきたいと考えています。
5	1. 子ども・若者 ①学ぶ意欲、学ぶ力、活用する力の向上において、中3の国語、数学の低下が気になる。 ②健康・体力づくりにおいて、低下が心配である。 これらは、令和2年3月まで状況なので、令和2年4月以降のCOVID-19による緊急事態宣言や感染拡大による行動制限の影響、ことに休校や学習環境の変化、戸外活動の制約等が、さらなる低下要因となり、令和2年度の実績は、更に悪化したのではないかと懸念される。	資料3 ① I 子ども・若者(3) ② I 子ども・若者(5)	①ちばっ子学力向上総合プランの各事業の一層の充実、推進に努め、児童生徒の学力向上を目指します。 ② 新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度の体力調査は中止としたため、数値での比較はできないが、休校等により、子供たちの体力はさらに低下していると思われます。感染症対策などの制限がある中ですが、体育の授業や休み時間、部活動などを通して、運動することは楽しいと実感させ、子供たちが積極的に運動に親しめるよう、授業改善や外遊びの奨励などに取り組んでいきます。
6	子育てを楽しんでいる家庭の割合が減少したことは悪しき傾向であるが、()の説明文の「子育てに負担感を持つ家庭の割合」が減少したのであれば、良い傾向なので、これはどう解釈したら良いか。	資料3 II 親(33)	子育てを楽しんでいる家庭の割合が減少したことは子育てに負担感を持つ家庭の割合が増えたこととなりますが、子育て環境に否定的あるいは肯定的な県民が増えたとは言いきれないため、次回調査の結果等をみたいと考えています。
7	仕事と生活の両立が図られていると感じる家庭の割合が減少傾向にあるのは、企業の働き方改革の効果がでていないことなのか。あるいは、収入が減少して複数の仕事をしなければ生計が苦しいということなのか。	資料3 II 親(37)	女性の社会参加等が進み共働き世帯も増え、仕事に追われ心身の疲労から生活との両立を図ることが難しかったりする等が考えられます。引き続き、働き方改革に取り組む中小企業に対してアドバイザーを派遣するとともに、企業向けセミナー等を実施し、多様で柔軟な働き方の普及を図ります。
8	放課後児童クラブの利用を希望しても利用できない児童数が、前年度(H30年度)より減少しているのは悪くないが、まだ、1,600人ほど存在するのは、早急な解消を図る必要がある。クラブの定員や数が増やせない原因は、支援員の不足が主な要因か。	資料3 III 地域(52)	支援員の不足も要因であると考えますが、地域により放課後児童クラブの設置場所や設置場所の面積等も関係していると思われます。県では待機児童の解消に向けて、放課後児童クラブの設置促進事業や放課後児童支援員認定資格研修等を実施しています。
9	施策推進の目標達成状況ではAやB評価が多く一定の評価ができると考えられる。一方、5年間の中で次世代育成支援の大きな課題の1つに、虐待問題が挙げられると思う。施策1-4(1)③「虐待を受けた子どもと親への在宅支援」、施策1-4(2)①「要保護児童への支援—施設機能の見直し・施設の整備」についてはC評価となっており、年々増加はみられているものの、この結果をふまえ、また現状をふまえた後期計画への反映が必要と感じる。	資料2 I 子ども・若者(18)、 (19)	「千葉県子どもを虐待から守る基本計画」における児童家庭支援センター及び地域小規模施設の設置に関する目標も踏まえ後期計画に反映させてまいります。

番号	意見の概要	該当資料	回答
10	千葉は野田の児童虐待事件で社会に大きなショックを与えてしまったが、虐待防止に向けて学校、地域、子ども会等と連携を更に密にして、子ども自身から大人にSOSを出せるシステムを作ってほしいと思う。	—	児童虐待防止に向け、子ども自らがSOSを出しやすい体制を構築することは重要と考えています。千葉県では、子どもの権利について記載された「子どもの権利ノート」を作成しています。様々な相談機関の連絡先も記載されており、今後、地域関係機関と連携して普及させていきたいと考えています。
11	里親も(一応目標値には達しているのですが)もっともっと増やすよう工夫して下さい。	—	千葉県里親会等の関係団体と連携し、里親制度説明会や10月の里親月間を中心としたキャンペーン等により、里親制度の普及と正しい理解の向上に取り組んでまいります。

□()は目標項目の番号